

第 8 回（令和 8 年度第 1 回）富山市上下水道事業経営審議会 会議録

- 1 日 時：令和 8 年 7 月 31 日（金） 午後 3 時 00 分～午後 5 時 15 分
- 2 場 所：富山市役所 議会棟 8 階 第 3 委員会室
- 3 出席委員：辻会長、上田委員、上野委員、尾畑委員、北岡委員、猿田委員、高橋委員、田中委員、中村委員、西口委員（会長を除いて 50 音順）
- 4 オブザーバー：富山県厚生部生活衛生課長
- 5 事務局：上下水道事業管理者、上下水道局長、上下水道局理事、上下水道局次長、上下水道局次長（技術担当）、経営管理課長、契約出納課長、料金課長、給排水サービス課長、上下水道計画課長、上下水道建設課長、上下水道施設管理センター所長、上下水道サービスセンター所長、流杉浄水場長、浜黒崎浄化センター場長、水橋浄化センター所長

事 務 局	定刻となりましたので、ただいまから第 8 回富山市上下水道事業経営審議会を開会します。本日はご都合により 1 名の委員がご欠席です。 それでは、開会にあたり、上下水道事業管理者の前田からご挨拶を申し上げます。
上下水道事業管理者	皆さんこんにちは。今年度最初の経営審議会、第 8 回目を迎えることになりました。今日も大変お忙しい中、また暑い中、委員の皆様には、足をお運びいただき誠にありがとうございます。 まず 1 点目として、この 4 月から実施した上下水道料金の改定についてご報告します。昨年の 5 月に、経営審議会から上下水道料金の改定が必要であるとの答申をいただき、水道料金 27%、下水道使用料 19.4%を平均とする改定といった内容でした。その後、昨年の 6 月市議会で条例改正案が可決され、それから約 10 か月の間、改定に向けたシステム改修やタウンミーティング、その他様々な媒体を通じて、料金改定の内容や改定に至るまでの状況について説明してきました。 その結果、この 4 月から 18 年ぶりの改定を実現することができ、これまでのところ、大きなトラブルや混乱は起きていません。大変難しいご審議をいただいたことについて、改めて感謝を申し上げる次第です。ありがとうございました。 この改定によりまして、水道料金、下水道使用料、それぞれ年間で大体 12 億から 13 億円ぐらいの増収を見込んでいます。今後、この貴重な財源を利用して、安定的な上下水道サービスの提供、それから将来に備えた内部留保をしっかりと積み上げていきたいと考えているところです。 そして 2 点目として、今週の火曜日に、熊本で大きな震災が発生しました。10 年前にも熊本地震がありましたが、また熊本でそのような大きな被災がありました。ちょうど 1 年半前に能登半島地震を経験した富山市としましても、熊本の地震については、こうしたことも起こり得るのだと改めて驚かされました。亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、ご遺族に心からお悔やみを、被災された方にお見舞いを申し上げます。

	10年前の熊本地震では、富山市上下水道局から職員を4人派遣し、漏水調査などの対応に当たりましたが、今回も今後、国や日本水道協会の全国組織からの応援要請を受け次第、直ちに職員を派遣できるよう今、準備体制を整えているところです。 なお、来週の月曜日から、職員3人を熊本の被災地に派遣したいと思っています。この派遣の目的は、1点目に、今後、本格的な応援復旧や復興に向けた応援派遣をするにあたって、まずは先遣隊として、現地の状況の情報収集を行うことです。 2点目に、被災自治体の災害対策本部などの組織がどのような対応をしているか現地でしっかりと確認し、将来万が一富山市で被災があったときに、どのようにして動いたらよいかということについて学ぶことです。来週から、ここにいる五十嵐次長をリーダーとして、危機対策課の職員2名、計3名を現地に派遣したいと考えているところです。 そして本日の議題です。富山市上下水道事業中長期ビジョン、これは前回の経営審議会でもご説明をさせていただきましたが、10年間を計画期間とする経営戦略です。これまで第1次、第2次とビジョンを策定し、それを踏まえて上下水道施設の整備や様々なサービスを進めてきました。第2次ビジョンが今年度で終了するため、来年度からの向こう10年間の経営戦略、あるいは主な事業施策について審議していただきます。 現在、富山市の総合計画の策定を進めており、ちょうどその計画期間とオーバーラップしますが、上下水道事業における、ある意味総合計画に相当するものです。今回我々はコンサルの力を借りずに、職員だけで策定作業を進めています。 今日は、中間報告、骨子案ということでご説明し、次回10月に予定している経営審議会で、改めて一定の案をご審議いただき、そのあとパブリックコメントなども経て、年明けの1月に、もう一度経営審議会で最終的な案をご審議いただく方向で考えているところです。今日はまず、その骨子案ということで、特に現在、富山市の上下水道事業が置かれている現状、それを取り巻く環境の変化を重点にご説明した上で、様々なご意見やご提言を頂戴したいと考えています。本日はどうぞよろしくお願いいたします。
事務局	事務局のメンバーにつきましては、お手元の参考資料3、富山市上下水道事業経営審議会事務局名簿をもってご紹介にかえさせていただきます。それではこれより議事に移ります。ここからの議事進行については、会長をお願いします。
会長	皆さん、こんにちは。これまでも事務局には一生懸命資料を作っていただき、委員の皆さんにも審議にご協力いただきまして、ありがとうございます。これまでよい議論ができたと私自身は考えています。 今日から第3次上下水道事業中期ビジョンの議論を進めていくことになります。本日は1回目で、少し長くなりますが、事務局からしっかりご説明いただき、

	その説明に基づいて、皆さんから自由にいろいろなご意見、ご質問をいただきたいと思います。よろしくお願いします。 それでは、事務局から今回の資料の説明をお願いします。
上下水道局次長	《事務局から「第 8 回富山市上下水道事業経営審議会資料（第 3 次上下水道事業中長期ビジョン骨子（案）」、「第 1 次～第 3 次中長期ビジョンの投資状況及び第 3 次上下水道事業中長期ビジョン収支計画」、「次期中長期ビジョンの策定スケジュール」を説明》
会 長	それでは、ただいまの説明について、ご質問・ご意見いかがでしょうか。
A 委 員	ご説明ありがとうございました。 投資計画の前提条件について教えてください。例えば、老朽水道管の更新は、これまで通り進めていくのか、人件費は令和 8 年度予算額を令和 18 年度まで同額で見込むのか。物価上昇率はよく分かりませんが、例えば企業債の金利が 5%、6%になったらどうなるのかも含めて教えてください。
会 長	事務局お願いします。
上下水道事業管理者	ありがとうございます。今のご質問の前に、第 3 次中長期ビジョンの収支計画は第 1 次、第 2 次の投資総額と比べ、水道事業で 80%増、下水道事業で 59%増と、積極的でチャレンジングな投資計画を立てました。これについては、先ほど冒頭で申し上げた上下水道事業を取り巻く老朽化の状況や耐震化が遅れている状況などを鑑み、今やるべきことをしっかりとやらなければならないという思いから、できるだけ数字を積み上げたところです。 ただし、何でもかんでも更新したり耐震化したりするわけではありません。経営の基本方針の「持続」の中の主要施策に掲げている污水处理システム全体の最適化をこの 10 年間で新たに取り組みます。これからの加速度的な人口減少やコンパクトシティという富山市のまちづくりの基本方針などの実情を踏まえ、現在、長い下水道管路で汚水を処理している方式から、合併処理浄化槽への転換なども含め、この 10 年間で污水处理システム全体の最適化ということを検討していく必要があります。つまり、今ある下水道を更新するのではなく、更新需要が来たときには、合併処理浄化槽へ転換していくなど、ゾーニングを明確にしていく一方、やるべき管路の更新や耐震化を進めていくというようにメリハリを持って投資をしていくということです。 それから上下水道施設の最適化も検討します。例えば、今の水道管の口径が 30 ミリだったものを、今後の水需要の減少等を踏まえ、20 ミリにダウンサイジングする、あるいは、今の上下水道サービスを安定的に維持するための対応策として、今市内に 8 か所ある下水処理場の統廃合を積極的に行うというような前向きな投

	資計画を立てました。 それで今ほどのようなご質問に戻りますと、収支計画の水道事業のところであるように、まず、収益につきましては、将来推計人口ビジョンに基づき給水収益を試算し計上しています。それから企業債の充当率につきましては、前回の水道料金改定の料金算定期間の財政シミュレーションで用いた企業債充当率 85%で試算しました。 一方で支出につきましては、人件費は令和 8 年度の予算額を計上しています。これを令和 18 年度まで適用していますが、人勧等のベースアップやその他の要素を今の段階では加味していません。今後の職員数は減少傾向が見込まれますが、職員数の増減は不確定要素が大きいことから、人件費につきましては、今の令和 8 年度ベースのものを 10 年間踏襲するという前提に立っています。 また、物価上昇率につきましては、過去 10 年間の平均 1.2%を用いていますが、これは正直、現実よりやや低いと私も思っており、これにつきましては、今後もう少し精査が必要だと考えています。 また、企業債の利息につきましては、料金算定のシミュレーションのときは金利 1.9%で計算していましたが、今回は、直近の長期債金利 3.6%に置き換えて試算をしています。 また、建設工事のデフレーターにつきましては、過去 10 年の平均ということで、上水は 3.03%で試算をしており、収支計画等はさまざまな検討事項がありますが、今回の試算に当たりましては、今ほど申し上げた前提に立ってシミュレーションをしているところです。
A 委 員	大変難しいシミュレーションだと感じました。この後、どの地区を浄化槽へ転換するかによっても全然違ってくると思いますが、最低限の事業をしようとしてもこれだけかかるという認識でよろしいでしょうか。
上下水道事業管理者	ご指摘のとおりです。
A 委 員	シミュレーションしているかは分かりませんが、令和 18 年時点で、どれくらいの管路が更新されているか数値は出ていますか。例えば、令和 32 年に（布設から 50 年経過する）下水道管は 57.1%、令和 32 年に（布設から 40 年経過する）水道管は 72.2%になっていますが、（提案された財政シミュレーションでは上下水道管路の更新がどのようになるか）そこまでは見ておられるということですか。
上下水道計画課長	全体の水道管が何%まで耐震化されるかについては、現在数字は持ち合わせていません。第 2 次ビジョンの指標にも掲げていた配水幹線の耐震化につきましては、第 3 次中長期ビジョンの前期までに 100%達成する見込みと考えています。 下水道につきましては、調査を行いながら悪いところを直していくという考え方で金額を積んでいます。今回、下水道法の改正があり、これまでは年間約 50 キ

会 長	口の調査を行っていたところ、1.5 倍ほどの年間 75 キロの調査が必要となっています。その調査結果に基づいた改築分を計上しています。 今回はまず 1 回目ということで、皆さんから幅広くご意見いただきたいということから、あまり精査されていない部分も含め、皆さんに開示していますので、まさに今のようなご指摘をいただくのが一番よいと思います。 今のご指摘に基づきますと、シミュレーションの前提となっているところは 2 つあると思います。 1 つは、財政シミュレーションをするときのテクニック上の前提です。例えば、人件費や物価上昇率をどう見積もるか、人口推計は人口ビジョン案に基づくなどということがあります。それをもう少し分かりやすく、最終的に仕上げてほしいと思います。 それから一番重要なことは多分ナンバー 4 の資料で、ざっくり建設改良費と主な内訳という形で出ていますが、やはり市民の皆さんから見ますと、ここに出てくるような事業内容の結果、何を諦め、何をやることになるのかということ。その結果、事業進捗状況が大体どのぐらいになるのかというのが過去の第 1 次、第 2 次の投資実績部分も含め、今後の第 3 次ビジョンで示されると、大体今後の 10 年間で何ができるのかという意味が見えるのではないかと思います。 説明がありましたが、第 1 次ビジョンの額を第 2 次ビジョンの方が下回り、それが第 3 次ビジョンではかなり積極的な投資になるわけです。これらの中からどういう事業内容を消化しながら、健全な状況を維持していくのかということのざっくりした見取り図があると、市民の皆さんの理解も変わってくると思います。そこはぜひ、分かりやすくする工夫をしながら、また次回ご提示いただきたいと思います。 現時点で、事務局から何か追加で説明できるところがありましたら、お願いします。
上下水道事業管理者	説明できるところはまだありませんが、ご指摘のとおり、これだけやったことによってどういうメリットがあるのか、市民にとってどういう成果があるのかということについて、次回の資料ではしっかり見える化してお出ししたいと思います。 また、十分に精査できていない段階で大変申し訳ございませんが、会長からご指摘いただいた点、意見なども踏まえ、次回までにしっかりと進めたいと思いますので、よろしくお願いします。
会 長	それでは続きまして、B 委員いかがですか。
B 委 員	日頃、人々の暮らしを守る上下水道をしっかりと運営していただいている職員の皆さんに感謝申し上げます。

	私からは意見としてですが、合併から 20 数年経ってもやはり冒頭にこのように書かなければいけないということが引っかかりました。 人口が減り、世帯数が減っていくにもかかわらず、管路を更新する場合、100 年、200 年かかるということ。40 年、50 年しか維持できないものにこれだけの費用をかけて、どうなるのかというところを市民の皆さんに、しっかりお示しすることが重要だと思いました。 その上で、前田管理者が言ったように、自助努力でやってほしいという部分と（上下水道局が）整備する部分が分かれ、料金値上げの話が出てくるのだと思いました。 いずれにしろ人の採用面や工事をしていただく会社の方々も含め、これから大変なことになると感じました。私からは以上です。
会 長	事務局の方で改めてありますか。
上下水道事業管理者	今ほど B 委員がおっしゃられたように、本来、経営戦略でここまで現実の姿を出すということはあまりないのかもしれませんが、この現実を知っていただくという意味で、今ほど、おっしゃられたように、ある意味ショッキングなデータをお出したわけです。 このようなことを踏まえながら、将来に向けて上下水道サービスをどう安定的に維持するか、我々も考えますし、市民の皆さんにも問いかけながら、よりよい戦略というものを、これからも作り続け、事業の推進を図っていきたいと思います。以上です。
B 委 員	コンパクトシティがこの頃緩くなったんじゃないか、という気もしますが、ここにコンパクトシティの根幹があると思いますので、積極的に市民に知らせたほうがよいと思います。よろしくお願いします。
上下水道事業管理者	はい、同感です。水道管、下水道管の延長はますます増えてきているという現実があり、これは我々も非常に問題意識を持っています。後からご説明しますが、下水道管につきましては、今、下水道整備区域というものを告示して定めていますが、例えば、市街化調整区域などで住宅が整備され、下水道区域から外れていたとしても、区域から 80 メートル以内の住宅については、管路を整備して公共下水道を接続してきました。本来の下水道整備区域から外れたところでも、実質上、無尽蔵に拡大している状況でした。将来の維持管理の問題もあり、今年の 6 月議会でも説明し、これ以上拡大しませんという宣言をしました。 もう既に住宅を着工されている方や予定されている方もいますので、再来年の 4 月以降は、公共下水道の拡張はやめるということで対応していきたいと考えています。 一方で水道管につきましては、水道法で、水道の給水をしてほしいという申請

会 長	があれば、対応しなければならないという義務があります。富山市の自助努力でどうしようもなく、水道管につきましては今後も延長ということが制度上出てくるのではないかと考えています。 いずれにしても、まちづくりの大きな方針であるコンパクトシティ政策との整合性ということをこれからも意識しながら、上下水道事業のあり方をしっかり検討し、市民の皆様の理解を得ながら、進めていかなければならないと考えています。 今でも富山市は、全国の中でコンパクトシティ政策の最前線にあり、全国がこれ以上広げないということに関しては、だいぶ進んでいます、今あるものを少なくしていくというところについては、まだまだこれからなので、私たちも含めて、頑張っていかなければならないということだと思います。 それでは〇委員いかがでしょうか。
〇 委 員	一般市民という立場で拝見しておりましたが、現在と 10 年後で、人口や世帯分布が地図上でどうなるのか示していただけるとよいと思います。市民としては、人口がどのように分散して、減少していくのかが分かり、それに合わせて下水道システムを変更してもよいということになると思います。早い段階から市民に伝えるなどして、効率のよい下水処理の施策を考えていただきたいと思います。 また、富山は水がよいので、安全な水が持続的に供給できるところに焦点を当てていただきたいです。 流杉はまた改築の時期に来ているのでしょうか。旧町村の状況を見ながら、浄水場のサイズなどを検討してほしいと思います。 また、下水処理で排出される汚物などを次の資源に活用していこうという意欲が見えたのは、大変うれしく思います。 最後に、人の問題です。大学でもこの分野は希望者が少なく、だんだん学部も減ってきているので、人材を配置するのが難しくなっています。そのため、内部でしっかり人材を育成できる仕組みを構築してほしいと思います。ぜひ検討をお願いします。以上です。
会 長 上下水道事業管理者	事務局いかがでしょうか。 人口分布については、現在、500 メートルメッシュを用いて、現在と 20 年後の人口分布を比較できるものを作っているところです。例えば、下水処理場ごとの人口分布が 20 年後どうなるかということを可視化できるシステムを今作っています。市民の皆さんに説明する際、見える化した資料が一番説得力があると思っていますので、間に合えば次回のときにお示ししたいと考えています。 それから流杉につきましては、平成 21 年に新しく移転したものは 1 系統で、もう 1 つ 2 系統というものがあります。全体で日量 15 万トンの水を作っており、今

		回は2系統がだいぶ古くなってきており、次のビジョンの期間中に移転したいと考えています。 あわせて、工業用水道も流杉で作っており、この工業用水道の施設につきましても2系統と一緒に整備をしたいと思っています。 それから内部での人材育成につきましては、一番大事だと思っており、例えばその1つとして数年前から、国土交通省の上下水道部署に、上下水道局から毎年若手中堅職員を1年間研修派遣しているほか、日本下水道事業団という国の外郭団体にも職員を派遣しています。OJTに加え長期派遣の中で、人のネットワークや国の仕事の幅広い見識を身に付け、資質の向上を図りながら、帰局後にしっかりと富山市のために働いてもらえる体制を今構築しており、これからも継続したいと考えています。
C	委員	よく分かっていませんでしたが、今お聞きして工夫されていると感じました。事業者も減ってきていますので、地震が起きた際にも対応できるよう、人材の育成を継続していただきたいと思います。ありがとうございます。
会	長	それではD委員お願いします。
D	委員	市民の目線から感想を述べさせていただきます。中長期ビジョンの説明をしていただき、問題点やぞっとするようなことが非常にたくさんあると感じました。そして、このことが市民の間に知らされていないと感じています。 今、上下水道局が実施されているタウンミーティングに参加した住民からは、初めて聞くことや知らないことがたくさんあり、参加してよかったとの感想が出ていました。つまり、第1次、第2次ビジョンを経験し、今度第3次ビジョンに行くにあたり、今までよりもどんな問題点があり、どう改善していくのかをタウンミーティングを含め、住民に知らせていくことがとても大切だと思います。 蛇口をひねると水が出ることは、住民にとって当たり前のことなんですが、そこにどのような問題点があるかを市民が知ること、そしてそれを自分ごととして捉えていくことがとても大切だと思います。 特に、今ほど人材不足が指摘されていましたが、例えば専門、技術職員の不足がとても深刻な問題だと思います。令和7年度は、28人の募集に対して5人の採用であったとのことですが、これは、採用が少なかったのか、あるいは応募人数が少なかったのでしょうか。それから、こうした問題をどのように解決していけばよいのか、市民にもっと知らせてほしいと思います。
会	長	事務局いかがでしょうか。
上下水道事業管理者		ありがとうございます。専門人材の不足については、本当に危機感を抱いています。これは公共側だけでなく、民間事業者側も同じ問題を抱えていると思いま

		す。少子化ということで簡単に片付けられない問題であり、これを補うためにどうしたらよいかということを官民とも考えていかなければいけない問題だと思っています。他の都道府県や市町村も同じだと思いますが、富山市の場合、上下水道局で単独で募集して採用するわけではなく、富山市全体として一括採用しています。市の建設部や農林部も含め、令和7年度は技術職員が必要数28人に対して5人しか採用に至りませんでした。最近は応募者数自体が定員を下回る状況が続いており、教員も一緒なのかもしれませんが、深刻な問題が続いています。 その原因の1つとして、水道事業や下水道事業がどのようなことをしているかを、大学生だけでなく中高生の段階から知っていただき、興味を持ってもらえる取組みが不足していたと最近つくづく感じています。高校や大学で出前講座や出前授業、あるいは14歳の挑戦などの活動を通して、中高生の段階から上下水道事業に興味を持ってもらえる取組みを行いたいと思います。 今年速星中学校2年生1人と西部中学校2年生2人、計3人が14歳の挑戦で来た際、最終日に私が面接し、どうして上下水道局を選んできたか尋ねたところ、「いろいろ職種がある中で、一番何しているか分からなかったので来た」と子供たちが言っており、あらためて上下水道事業が何をしているのか認識されていないということに気づかされました。 教育普及活動という意味で、また教育委員会とも連携し、新たに水道事業、下水道事業の重要性や大切さ、D委員がおっしゃったような、当たり前がどうして当たり前になっているのかということを伝えていけるような努力をこれからしっかりしていく必要があると思っています。
会	長	それではE委員お願いします。
E	委 員	Eです。今日はありがとうございます。2点感じたことがあります。 1点目は、完璧な資料を揃えていただいています。私が出席している他の会議体では、事前に資料をダウンロードし、各自パソコンを持ち込んで、パワーポイントで説明をされているところも多くなっています。完璧な資料を作るのにも工数がかかりますので、希望者のみにプリントアウトするのでもよいと感じました。 2点目として、人材不足への対応としてAIを活用したDX化を新たに盛り込まれていますが、上下水道事業においてはどのようなDX化があり得るのかをお聞きしたいです。 平均年齢が若いというのは本当に羨ましい限りで、どの業界も年齢層が高く、悩んでいるところが多いです。若いと新しい発想が生まれると思いますし、その新しい発想に期待しながら、どのようなDX化を想定しているのか、またシステム改修等の費用は見込んでいるのかをお聞きしたいです。
上下水道事業管理者		ありがとうございます。資料作りについては、非常にご評価をいただきありが

		とうございました。一方で、大量印刷してコストがかかり過ぎているのではないかとということもあると思いますので、ご意見を参考に検討したいと思います。 それから上下水道事業における DX の推進ということについては、政策投資銀行の H 委員からも資料を提供していただき、先進都市のモデル事例などを勉強しているところです。例えば、先ほどの管路マネジメントについて、これまで目視点検していたものを自走式の AI 搭載カメラを用いて、目視では死角になる箇所も含め、360 度点検する方法があります。 現在は国が政令等で検査基準を義務づけましたので、必然的に AI やデジタル技術を導入していかなければいけないと思います。 富山市もドローンを操作できる職員を毎年少しずつ増やし、例えば水管橋について、和歌山では水管橋の崩落事故がありました。富山市でも水管橋をドローンで点検したり AI 技術を活用したりしながら、検査マネジメントもやりたいと思います。 また、先ほどの施策の中にありました上下水道台帳のクラウド化も災害が発生した際、応援自治体の職員がどこにどのように管路があり、どこが被災しているか分かりやすくし、災害時などにも対応できるよう進めていきたいと考えています。 AI 技術の導入で対策できることはいろいろあると思いますので、今後、他都市の事例や H 委員からもご指摘いただきながら進めたいと思います。
会	長	私も企業のデモで少ししか見たことないですが、上下水道が一体となってクラウド上で見やすくなり、将来、それがスタンダードになるというような話を聞いたことがあります。 このビジョンの中には、どこまでのシステム化の経費が入っているのでしょうか。
	上下水道計画課長	今ご説明したとおり、まず水道についてはクラウド化ができていないため、そこから取り組んでいきたいと思います。また、今、会長がおっしゃった上下水道の統一されたシステムが出てきていますので、富山市でも導入の検討をしていきたいと考えています。そして、今回のビジョンにも一定の費用が含まれています。
会	長	ありがとうございます。それでは F 委員お願いします。
F	委 員	私は特に、合併した地域が今後 5 年、10 年どのようになるのかが一番心配です。この計画書には、7 年後ぐらいに赤字となり、料金の値上げを検討しなければならないと記載されていますが、その前にできることを検討してほしいです。 例えば、水道管の口径を 30 ミリから 20 ミリにすること。また、大山と大沢野の処理場は距離的に割と近いので、処理の仕方は違うかもしれませんが、例えば、2 つを 1 つにするとか、3 つを 2 つにするとか、できないことをどうすればできる

	かということを考えていただくことも1つの方法だと思いますので、よろしくお願いします。以上です。
会 長	事務局をお願いします。
上下水道事業管理者	どうもありがとうございます。私も郊外に住んでいますので、F 委員のお話は痛いほどよく分かります。料金改定をする前に、様々な経費節減の努力や今のやり方を新しい方式に見直すことが必要です。人口が減少した分、一人ひとりの負担が単純に増えていきますので、私たちもできるだけ料金は抑えたいと考えています。 そのため、第3次ビジョンでは持続可能な上下水道システムの構築を掲げており、先ほど触れていただいた口径のダウンサイジングや処理場の統廃合が必要だと考えています。これはシステム全体の最適化の中で、下水道区域、浄化槽区域とあわせて富山市内には8つの処理場があると申し上げましたが、まさしく大沢野と大山は、比較的近いところにあり、将来的にどの処理場を統廃合するか、これからじっくり検討していかなければいけません。 将来的に安定的なシステムを維持するためには必要だと考えており、主要施策にもあえて挙げています。しっかりとこの10年間のうちに、少なくとも方向性、将来どこを統合するかという結論まではきちんと出していきたいと考えています。
会 長	それではG 委員をお願いします。
G 委 員	ビジョンの説明ありがとうございました。私からは感想を申し上げます。人口減少や施設の老朽化、自然災害の激甚化、物価上昇、事業所数の減少など、どれもこれも大変難しい問題ですが、そうした課題に対して臆することなく、責任を持って取り組んでいくのだという、事業経営主体としての熱意や覚悟が文章から伝わってくると率直に思いました。特に習慣や固定観念に捉われず、お客様とともに新たな価値を創造する姿勢や、果敢に挑戦するという力強い言葉が基本理念の中に入っているのは、非常に市民の方にも伝わると思います。 また、基本方針の「信頼」については、先ほどD 委員からも市民の方に説明することが重要だという意見がありましたが、全く同感です。今回、料金改定をしていく中で、先ほど管理者からも説明がありましたが、タウンミーティングやワークショップで双方向のコミュニケーションを取るなど、様々な取り組みをされていると思います。経営環境が厳しくなっていく中において、市民の理解を得ながら事業経営を進めていくことはこれからますます必要になってくると思います。 料金改定のときのみならず、日頃から、課題や理想像を市民の方と共有して、信頼関係を築いていくことは重要なことですので、今回、「信頼」を基本方針の1

	つに位置付けておられるんだと思います。前回とは違い、こういうことが非常に重要になってくると思います。 先ほどＤ委員の話を聞いて思ったのですが、水道や下水道は管が見えず、処理施設や浄水場、浄化センターも遠方にあったりして、普段、市民の目につかないので、水道、下水道がどんなことをしてるのかが分らないです。やはり事業の見える化という視点を職員が意識して持つことが大事だと思います。職員の方にしたら、毎日やっている当たり前のことでも市民の目には見えていません。例えば、道路で工事をしている、これが水道の工事なのか下水道の工事なのかガスパの工事なのか分らないものです。どういう方法があるのか分かりませんが、見える化という視点をいろんなところで持たれたらよいと思います。 市民との信頼関係を築いていく中で、現在、将来の市民にとって、水道も下水道施設も大事な資産であり、自分たちの資産である意識が醸成されていけばよいと思いました。 あと１つ質問です。（資料No.3）20 ページに「内水ハザードマップの作成」とありますが、今まで防災部門から、洪水ハザードマップなどは各世帯に配られていると思いますが、これとはどう違うのかということ。私のところでも、２年前に線状降水帯が県内で初めて発生したときに床下浸水を経験し、関心があります。市民の皆さんも非常に関心を持っておられるところだと思いますので、これはどういうものなのか、できれば早く市民の方にお知らせすべきものだと思います。配付の予定が分かっているのであれば、教えていただきたいです。
会 長	事務局いかがでしょうか。
上下水道計画課長	洪水ハザードマップは川が氾濫した場合を想定しているのに対し、内水ハザードマップは、降った雨が下水道や雨水幹線から溢れた場合を想定したものになります。つまり、洪水ハザードマップは川が溢れた場合、内水ハザードマップは川ではなく、市内に降った雨の排水が追いつかない場合を想定したものになります。 現在、富山市では、中心部の合流式下水道の区域についてはすでに内水ハザードマップを作っており、それ以外のところについては策定できていませんので、今年度から内水ハザードマップの作成に向けて基礎調査を実施しています。
上下水道局理事	補足します。例えば皆さんのお宅の前にある道路の側溝や雨水幹線は、計画降雨水量を前提に整備していますが、急激に増えれば排水が追いつかず、河川に放流されるまでの間、道路上でどんどん溜まり、それが床下浸水、床上浸水になるとどれくらいの危険度があるか分かるのが内水ハザードマップです。 最近の豪雨では、内水の被害が皆さんの生活に直結していますので、ハザードマップを作成し、公表していきたいということです。
会 長	それこそメッシュ地図と内水マップを重ねて表示できれば分かりやすいと思い

	ますので、正確に予測し、開示できる工夫をしていただきたいと思います。 続けて、H 委員お願いします。
H 委 員	ご説明ありがとうございました。今回のビジョンを職員の皆さんで作られたことに、個人的に敬意を表したいと思います。また、総合計画と同じように、バックカスティングの考え方で政策も整理されており、上位計画との整合性も図りながら策定が進められていると思いました。 その中で、第1次ビジョンでは整備拡張に力点を置かれ、第2次ビジョンでは維持管理に力点を置かれていますが、第3次では一言で表すと何なのかを明確にされたほうがよいと思いました。 その上で、第3次ビジョンの中頃から世帯数の減少に転じて水需要も減っていくという局面があると思いますが、それ以降、2050年にかけて世帯数は今の半分になることが人口推計から示されています。そうした中、水道事業、下水道事業ともに大胆な投資が盛り込まれていることについて、市民の方へかなり説明が必要だと思いました。将来、水需要が縮小し、積極的な投資を行うことで内部資金が減り、料金を値上げをしなければなくなる可能性がある中でも投資を行う必要性は、説明する必要があると思います。 ビジョンの期間だけでなく、おそらく浄水場や浄化センターへの大規模投資については、将来40年、50年後の需要規模に応じた投資になってるのかも含めて検討が必要だと思います。 水需要や人口規模、人口密度も減っていく中で、どの場所に対してサービスを提供していくことが妥当なのか、第3次ビジョンで結論は出ないかもしれませんが、視野に入れておく必要があると思います。そうしたことを視野に入れながら、投資の優先順位を決めていく考え方も導入していかなければ、立ち行かなくなるおそれがあります。投資の優先順位の検討も必要になると思います。
会 長	事務局いかがでしょうか。
上下水道事業管理者	ありがとうございます。この10年は非常に難しい期間になると思っています。本来であれば、一度立ち止まり、今後の水道、特に下水処理のあり方、これまでの長い管路で行うのかそれ以外の方法で行うのか、全部ゾーニングした上で次の投資の優先順位を決めることが理想です。しかし、どんどん老朽化が進み、皆さんご承知のように日本ではいつ、どんな災害が発生するか分からない状況のため、耐震化も進めなければなりません。 今立ち止まって、何もしないと、今度は物価が上がっていきます。リニア新幹線が10年、20年立ち止まり総事業費が2倍以上になったという二の舞は避けたいと思いますので、今、やるべきことをやることで結果として総事業費を抑えることに繋がると思いますので、きちんと優先順位を立てた上で、投資をしていきたいと思っています。

		一方で、将来的な全体システムの最適化も考えていかなければならず、この 10 年間は非常に難しい時代だと思いますが、しっかり頑張っていきたいと思います。それから、ご指摘のとおりこれだけ大きな投資をする意味、その結果、何が達成できるのか、市民にとってメリットは何なのかということをしかりと説明できるように考えていきたいと思います。以上です。
会	長	それでは I 委員お願いします。
I	委 員	感想ですが、将来を見据えて、一部浄化槽にしていくことは大切なことだと感じました。 それから鉛管を他のものに交換していくこともぜひ実施していただきたいと思います。引込管はそれぞれの家庭の持ち物になると思いますが、引込管の曝露のリスクを下げるにはどうしたらよいかも、ぜひ市民に周知していただきたいと思います。 職員が不足する問題については、技術職員だけでなく、文理融合の教育を受けた職員でも対応していくことができればよいと個人的には思いました。
会	長	事務局いかがですか。
給排水サービス課長		ありがとうございます。鉛管に関する現在の上下水道局の取組みをご説明します。令和 8 年の 1 月に、国が曝露を下げるための水の使用の注意点をまとめたチラシを作成しました。このチラシを鉛管を使用している市民の方、約 2 万 4000 件に順次郵送しています。 内容としては、水道本管の中に流れる水質は、鉛の基準値をクリアしていますが、道路から宅内に引き込まれる管や宅内の管に鉛管が使用されている場合で、そこに長時間滞留したとき、基準値を超えるおそれがあります。そのため、長時間使用していない朝一の水や帰宅後の水については、初めの 10 リットルほど、バケツ 1 杯程度を飲用以外に、例えば、洗濯やトイレ、お風呂、植栽の水やりに使用していただきたいとご案内しています。以上です。
上下水道事業管理者		文理融合の人材についてのご提案ありがとうございました。国際大学の学生さんに来年度以降の富山市役所の受験をお勧めいただければ大変ありがたいですし、本日森口先生がお休みですが、富山大学にもリクルートに行きたいと思いますので、よろしくお願いします。
会	長	続きましてその他の取組み、No.6 から No.9 まで、事務局から説明をお願いします。
事 務 局		《事務局から「中東情勢の緊迫化に伴う上下水道事業への影響について」、「下水

会 長	道分野における水の官民連携(ウォーターPPP)の導入について」、「将来的な公共下水道区域の見直しを踏まえた現行制度の改正について」、「水道事業「通水」90周年・上下水道局発足25周年 記念事業について」を説明》
富山県生活衛生課長	ありがとうございます。時間が限られていますが、ご意見のある方、積極的にお願いします。いかがでしょうか。 清水アドバイザー、最後に一言ありますでしょうか。 富山県生活衛生課の清水です。中長期ビジョンについては、思い切った投資計画や人口減少に合わせた上下水道システムの見直しなど、非常に苦勞されながら、ビジョン骨子を作成されていると感じました。 先日発生した熊本地震への対応について、すぐに職員を派遣できる事業者は限られていると思いますが、そのような中で職員を派遣していただけるということで、非常にありがたく思います。私からは以上です。
会 長	皆さんいかがでしょうか。よろしいでしょうか。 本日は皆さんから、その他の取組みに関係することも含めて意見をいただきました。それも踏まえ、事務局で資料を整理していただきたいと思います。 次回は第3次ビジョン全体のキャッチフレーズを示していただき、単に事業内容を示すだけでなく、事業規模の面からも十分に実施する意義があるものだとアピールしていただきたいと思います。 最後に、(資料No.3)25ページに「施策の「方向性」10お客様サービスの向上」とあります。公営企業として、市民もお客様としての側面を持つと同時に、積極的に上下水道サービスの向上に関わっていただきたいと思います。 自分たちでサービスを作っていくのだという意識で関わってもらえば、信頼も高くなると思いますので、そのような施策を工夫していただきたいと思います。 基本方針の出し方は、今回出ているものでも十分だと思いますので、事業の具体的な中身とボリュームについてより整理していただきたいと思います。 それでは時間ですので、本日の審議はここまでとし、進行を事務局にお返しします。
事 務 局	会長並びに委員の皆様、ありがとうございました。 なお、現委員の任期は令和8年8月25日までの2年間であることから、本日の審議会が現任期の最後の会議となります。 このたび、任期満了をもって退任されるG委員、F委員にそれぞれご挨拶を賜りたいと思います。G委員からお願いします。
G 委 員	料金改定などで、何度も審議会で意見をさしてもらいました。あまり参考にならなかったかもしれませんが、事務局の方々には、これからもよりよい事業の推

F 委 員	進を図っていただきたいと思います。 私は公募委員に応募しましたが、応募者が私 1 人だったのは残念でした。レポート提出のハードルが高いと感じましたので、今後の参考にさせていただきたいと思います。 また、審議会の中でいろいろと勉強させていただきました。上下水道局が牛島にあると知りませんでしたし、上下水道局職員の皆さんには、今後ますます頑張ってください、安心して安全な水を供給していただけますよう、よろしくお願いします。どうもありがとうございました。
事 務 局	ここで前田管理者から退任される G 委員と F 委員へのお礼のご挨拶を申し上げます。
上下水道事業管理者	お礼のご挨拶を申し上げます。 G 委員、F 委員には、この 2 年間で、市民目線や福祉目線、いろいろな観点から貴重なご意見をたくさんいただきました。本当にありがとうございました。 令和 6 年にこの上下水道事業経営審議会を立ち上げ、一番最初の議題が料金改定でした。一番大変な難しい内容について諮問させていただき、いろいろとご苦労があったと思いますし、そうした中で率直なご意見をたくさんいただいたことは、私たちにとって大変ありがたく、今後の事業運営に対する資産をたくさんいただいたと感謝しています。 今回、任期満了により退任されますが、今後も引き続き、一市民として、上下水道サービスを見守っていただき、もっと頑張れというメッセージや叱咤激励をいただければ大変ありがたいと思います。 この 2 年間本当にお世話になりました。今後ますますご健康でご活躍されることをご祈念申し上げます。本当にありがとうございました。
事 務 局	それではこれもちまして、第 8 回富山市上下水道事業経営審議会を終了します。本日はどうもありがとうございました。